

巻頭のことば「未来に向けた研究者の道程作り」

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡野, 光夫 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10470/00031862 |

未来に向けた研究者の道程作り



一般社団法人未来医学研究会 会長
東京女子医科大学 名誉教授・特任教授
ユタ大学 細胞シート再生医療センター長・併任教授

岡野 光夫
Teruo OKANO

やれないことに挑戦する研究者が必ずしも評価されない現代で、高村光太郎の詩“道程”は研究者の本来のあるべき姿をありありとイメージさせている。

道程

高村光太郎

僕の前に道はない
僕の後に道は出来る
ああ、自然よ
父よ
僕を一人立ちさせた広大な父よ
僕から目を離さないで守ることをせよ
常に父の気魄を僕に充たせよ
この遠い道程のため
この遠い道程のため

誰もが病気との闘いから解放される理想的な医学の実現は遠い未来のことであり、自分が生きている間に達成できないとしても、それに向けて挑戦する研究者が打ち立てる道程(道しるべ)こそが人類の価値であることに違いない。

35年におよぶユニークな活動をしてきた新経営研究会の松尾隆さんが私の部屋を訪ねて下さった。研究会では、1982年より2016年の34年間に亘り年6回の講演会を開き、議論した800以上の事例から50例を取り上げ、『イノベーション：日本の軌跡』(全18巻)にまとめて刊行した。幾多の困難を乗り越えて、遂にブレイクスルーに至った開発者や、また革新者の夢と苦闘の軌跡を本人から聞いて、『「イノベーション」の生きた感動を記録として残したかった。』と松尾さんは言う。ソニーのウォークマン開発や、ヤマト運輸の宅急便の事業化、ホンダのジェット機開発、

東芝の日本語ワードプロセッサ、日立の海外に飛躍させた鉄道技術、トヨタのハイブリッド車、東レの人口皮革開発など、『その18巻には、ノウハウやハウツーを超え、独創やイノベーション、創造的風土とは如何に生れ、如何に実現されたのか。事業とは、経営とは、また、創造とかイノベーションとは何なのか、その原点と本質を噛み締め深く考えさせる、汲めども尽きない示唆が溢れています。』と続けた。

来る11月に、研究会発足35周年大会を『グローバル化、第四次産業革命といわれる時代の日本の進路、求められている革新』と題して、晴海埠頭に繫留されている航海訓練用帆船『日本丸II』で企画している。この日本丸IIでは、嵐になると海に出て行き荒れ狂う大自然と対峙する中で『リーダーシップ』や『フォロアシップ』を体得させる訓練を行っている。日本の偏差値教育の中で育つ若者達がどうしてもパッシブになりがちの中で、アクティブに行動する重要性を体得させることを目的としている。指示を待っていて何もしないと船が沈んで、元も子もなくなってしまう。松尾さんは、このような日本丸IIの空間の中で、アクティブに真摯にイノベーションのための苦難と闘う様々な研究開発の話聞き、考え、議論したいと考えている。遠い理想を目指した現代の研究者の挑戦から、それを道程として何かを学ぼうとしている。

この35周年大会で、私は基調講演を依頼された。その役割の大きさを感じながらも、医学に先端技術を持ち込む私の挑戦を知って頂き、私の道程の作り方を異分野の方と多面的に議論できる機会と考え取って引き受けた。アクティブに先端医療開発を推進する人たちの結集を目指す未来医学研究会のこれからの道程作りの有り方を考える良い機会にした。